

# 平成 26 年度作文コンクール

安全振興会では、生徒の皆さんの安全意識の高揚を図るために、「安全」又は「健康」をテーマに作文コンクールを実施しています。今年度も素晴らしい作品が500編も寄せられました。岩壁清吉委員長、吉岡謙二郎副委員長、王尾富美子、桐野輝久、萬俣好明、官代哲彦委員の6人の元校長先生に審査をお願いしました。最終選考会議では、優秀2編、優秀5編、佳作26編が決定されました。この中から最優秀に選考された作品を掲載しました。

最優秀賞

## ナイトハイク

県立茅ヶ崎高等学校二年

千徳 茉有

ふっと会話が途切れる。そう言えば、夕方五時に待ち合わせしてからずっとしゃべりっぱなしだった。勿論、夜の八時のスタートから歩き通しだ。外は真っ暗。人家の灯りも消えてゆき、信号とコンビニの光が夜空を照らす。いつもならとくに夢の中。今日は、いや今夜は待ちに待った「ナイトハイク」当日だ。茅高に入学して一年半。去年は天候不順で当日に中止になった。だから、今回はリベンジの意味も兼ね期待に胸がふくらみっぱなしなのだ。

南足柄の大雄山をスタートして茅ヶ崎にある学校までおよそ三十七キロメートル。ほとんどフルマラソンの距離を歩き続ける。持久走だつて最高五キロ位だし、ウォーキングだつて一時間が限度だ。「限界」に挑戦というよりも未知の世界の距離でイメージすらできない。おまけに十日程前の体育で左膝を打撲してしまい完璧な体調ではない。不安を抱きながらのスタートになってしまった。けれど、やるからにはゴールまでしっかり歩きたい。ひそかに闘志を燃やしている私だ。

日常ではない時間に心が高ぶる。午前中は普通に授業を受けてきた。一日が長い。仲良しのSとしゃべりながら歩く。友達のこと。趣味のこと。修学旅行のこと。いろんな話をとりとめなく話す。十六歳は話題が尽きない。女子ばかりのグループは賑やかだ。みんなを気遣える人。自分のことで精一杯の人。いつもと違う一面をみせる友もいる。どの位の距離を進んだのだろう。休憩場所を腹ごしらえをする。とにかく歩くとお腹が空く。時計の針は次の日を指そうとする時刻。普段ならこんな時間に肉まんなんか食べたりしないなあ。太るもんなあ。それにしても眠い。そんなことを思いながら疲れた脚を伸ばす。国道にはひっきりなしに大型車が走り抜けて行く。夜遅くまで開いている店の多いことにも驚く。このイベントを企画、実行してくれた仲間と先生方、PTAの方々、協力してくださる方達がいってこうして歩いてくるのだ。チェックポイントで全員通過を見守って下さる先生に名前を呼ばれる。はい。私は今頑張っています。

正門をくぐる。入学式以来の重みのある一歩だ。やっと辿り着いた。地面に座つたらもう動けなくなつてしまった。身体はポロポロだけど清々しい。酷使した脚をマッサージする。歩き切つたことが自信になる。

人生をマラソンに喩えるなら高校生の私達はまだスタートしたばかりだ。気持ち良く走り続ける時ばかりではなく、登り坂や向かい風に苦しむこともあるだろう。そんな時は支え合つて頑張り抜いた今日の日を思い出そう。輝く青春と未来に思いを馳せながら、長い長い夜が終わる。もう朝は、始まっている。

最優秀賞

## 絶対気をつけて帰ってね

県立麻生総合高等学校三年

苑原 珠生

「絶対、気をつけて帰ってね。バイバイ。」これは私が友達と別れる際に必ず言う挨拶だ。

交通事故は、ニュースや新聞などで見ていると他人事のように思える。しかし、交通事故はいつ自分や友達、家族に起こるかわからない一番身近な事故だと私は思う。だからまた明日も元気な姿で会えるようにと思いつきながら冒頭の挨拶をするのだ。

七月にスケアードスレートという授業を受けた。演出ではあったが、目の前で車や人、自転車衝突するところを初めて見て、想像していた以上に衝撃を受けた。もし、あのぶつかった人が自分だったら…。友達、家族だったら…。嫌な想像で頭の中がいっぱいだった。私はアルバイトには自転車通っている。危ないと思いついた。私は安全確認もせず、信号無視をしてしまう。最近では、「ながらスマホ」もするようになっていた。人とぶつかりそうになったり、たびたび危ないと思う瞬間は感じながらも、交通事故の危険というのはその頃あまり意識していなかった。しかし、この授業を受けてよく考えてみると、一秒でも違っていたらぶつかったかもしれない、大ケガをしていたかもしれない、もしかしたら加害者になっていたかもしれないのだ。加害者になれば一生の責任を負う可能性だってある。だから事故は恐ろしいものだと思う。しかし交通事故というのは、一人ひとりが意識をもって気をつけていけば起こらないのだ。きつとたくさん人が以前の私と同じように事故に対する危機意識があまりなく、他人事のように思っているのではないだろうか。目の前で事故の恐ろしさを体験してみないと意識は低いままなのかもしれない。だから学校でスケアードスレートのような授業を必ず受けるべきだと思う。そうすることで少しでも事故への意識を感じられると思う。

私の事故への意識が高まったのには他にも理由がある。それはSNSで見た、ある女子の投稿だ。大切な人といきなり連絡が途絶え、事故に遭っていた、という内容だった。まさかとは思ったが、その大切な人は亡くなったという。ついさっきまで一緒に笑っていた人ともう一生会えないのだ。私はすごく「死」というものへの恐怖を感じた。それと同時に、相手に自分の気持ちを伝えることの大切さを知った。いつ会えなくなっても後悔しないように感謝の気持ちをちゃんと伝えるようになるようになった。だから元気に明日も会えるように、今日も「絶対、気をつけて帰ってね。バイバイ。」と言う。